

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年 8月18日

【評価実施概要】

事業所番号	2874700285		
法人名	社会福祉法人 みかたこぶしの里		
事業所名	グループホーム むらおかの空		
所在地	兵庫県美方郡香美町村岡区川会13番地1 (電 話) 0796-99-5363		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成21年7月17日	評価確定日	平成21年8月18日

【情報提供票より】(平成20年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	14 人
職員数	13 人	常勤 11人, 非常勤 2人, 常勤換算11.56人	

(2) 建物概要

建物構造	RC・一部鉄骨 造り
	3階建ての 2階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	23,400 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 200 円	昼食 350 円	
	夕食 300 円	おやつ 150 円	
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	14 名	男性	2 名	女性	12 名
要介護1	8	要介護2	2		
要介護3	3	要介護4	1		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 84 歳	最低 64 歳	最高 99 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	村瀬医院、香美町国民健康保険大谷診療所
---------	---------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

兵庫県北部の山間部にある「グループホームむらおかの空」は、世界最大級の本像三大仏である但馬大仏のある長楽寺の山麓に位置している。1階にはデイサービス、2階・3階がグループホームとなっており、ホームからは、四季折々に移り変わる景観を味わえる山々や矢田川の清流、見上げれば三大仏と風光明媚な環境となっている。スタッフは、法人の基本理念をケア目標として、利用者14名の一瞬一瞬の思いや感情の変化に柔軟に対応しながら、生きることへ意欲が持てるようケアの充実に努めている。今年度は個別ケアの充実を目標としており、新たに家族へのアンケートを行い、シートの見直しに取り組んでいる。管理者・スタッフは、利用者一人ひとりに寄り添いながら認知症ケアに意欲的に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4) 前回の自己評価、外部評価の改善事項は3項目であったが、それに変わるものとして独自に課題を抽出した改善シートが作成され、改善に向けての取り組みが行われていた。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4) 今回の自己評価に対する取り組みは、それぞれのスタッフで項目ごとに担当して、フロアごとの考え方を盛り込みながら作成し、まとめを管理者が行った。自己評価の内容で修正した項目については、担当したスタッフにフィードバックして取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6) 運営推進会議は、利用者家族、区長、香美町介護保険課、施設職員の出席を得て、年に3~4回開催されている。前回は、外部評価の結果やホームの活動状況、地域からの意見要望等が話し合われ、家族より入居後職員の支援によって、「排泄が自立に向かっている」、「利用者個々に応じた役割が担えている」などが報告された。行政からは、地区での「認知症勉強会」開催に向け、地域の協力要請が行われた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8) ご家族のホーム訪問時に意見を伺っている。ケアプランの専門用語についての意見があり、出来る限りわかりやすい言葉で表現するよう修正している。家族は、遠方に住んでおり、家族会の開催が難しく、交流の機会も出ていない。アンケートや家族がホームを訪問する機会を作る等、意見・要望・苦情が積極的に取り入れられる仕組みを作ってもらいたい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3) 地域行事への積極的参加、保育園・小学校との交流も行われている。また、地区の大正琴やカラオケグループの訪問により、利用者の生活に潤いがもたれている。高校のPTAのボランティアによる施設外回りの溝清掃、草刈等が予定されている。外出時には、地元の方たちが気さくに声をかけてくださり、自家栽培の野菜等を頂く関係が日常的に行われている。

2. 第三者評価結果票

第 三 者	自 己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念の「人権の保障」・「ノーマライゼーションの確立」・「生きがいの創造」と共に、事業所独自の理念である「尊厳が保たれる自分らしい生活」を施設内に掲示し、より深く理解し、取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践は、若い職員に理念が精神的な目的であることを理解し、現場で日々、取組みの方向を確認し、理念に向け、ゆっくり確実に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の盆踊りや夏祭りへの参加、老人会・保育園・小学校との定期的な交流や、近隣や利用者の知人によるカラオケや大正琴の演奏ボランティアの訪問があり、村岡高校PTAのボランティアによる施設の外回り清掃が行われている。外出時には、挨拶や野菜の提供を受け、食卓に上る等、良好な関係が構築されつつある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の自己評価結果を踏まえて、職員の中から、独自に課題を抽出し、改善計画シートに落とし込み取り組んだ。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年3～4回、開催している。会議のメンバーは、利用者家族・地元区長・香美町介護保険課・法人理事長・職員で構成されている。会議では、評価の報告・ホームの活動状況の報告が行われ、テーマを基に、出席者による意見交換が行われているが、2ヶ月に1回の開催には至っていない。	○	運営推進会議は、2ヶ月に1回を目標に、今一歩努力を期待する。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政からは、グループホーム間の会合や研修時の会場の提供があり、事業所での福祉課職員の研修時の受け入れが行われているが、サービス向上に取り組む協働の関係までには至っていない。	○	福祉課職員の研修受け入れ等は行なわれ、対話する機会が多いが、課題解決や運営上の相談等関係作りを積極的に行うに至っていない。関係作りを積極的に行い、協働関係を構築出来るよう事業所のあと少しのアプローチを期待したい。
4.理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態は、毎月定期的に、書面で報告している。急な変化については、その都度電話連絡にて、状況を伝えている。金銭管理については、3か月に1回明細書を送付し、確認印をいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームは、家族の意見、不満、苦情をマニュアルに従い聞き取り、日々現場や、運営に活かせるように努めている。家族等の訪問時の会話を通じて、聞き取るように努め、雑談の中で話された意見についても、ミーティングで話し合い、ケアに繋ぐようにしているが、外部者へ表せる仕組みには成っていない。	○	アンケートを取ったり、意見箱を設置するなどして、幅広く家族等が、意見や、不満、苦情を表出しやすい環境を整備すると共に、その対応結果を、運営推進会議や「お知らせ」の中に取り上げていくなどして、利用者・家族等との信頼関係を更に醸成されることを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度は、職員の異動はなかった。フロア間の職員が行き来することで、馴染みの関係になっており、急な異動等に対しても、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て、月に1回職員研修を実施している。外部研修については、各種研修案内を回覧し、必要に応じて、復命で研修を受けさせる等、研修の機会を確保する仕組みがある。現場では、その都度、ベテラン・中堅職員により新人に実践を通して、研修が行なわれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	郡内グループホーム職員間の交流や会議研修など活発に交流されており、お互いのケアの質を高める意見の交換が行なわれている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来る限り自宅と同様の環境を作れるよう使い慣れた道具を居室に持ち込めるよう配慮しており、利用者の状況等は、ミーティング時に全職員が認識し、声かけ等、馴染みの関係が出来るよう工夫している。入居前の馴染みの関係づくりについては、実践されていない。	○	馴染みの関係が出来ないまま、いきなりサービスの利用を開始することは、本人に様々なダメージをもたらす危険がある。サービス開始前に、日中活動やちょっとした訪問などを行い、職員や他の利用者、場の雰囲気になじめるような工夫と配慮を期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はサポートする立場にあることを自覚し、常に利用者との信頼関係を大切に、挨拶や言葉づかいに気をつけている。昔の生活の様子や、野菜づくりの極意、四季折々の話、調理等など、利用者から学ぶことは多い。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、ふと発せられた言葉や呟きも大切に記録して、表情や態度、口調の変化を逃さず、また、言葉に隠された思い等、ミーティング時に確認し、声かけに工夫をしている。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス開始時は、情報提供表や事前面接時に、本人から契約時に家族から聞き取った情報を基に、介護計画を作成している。また、サービス開始前の生活歴や趣味等について、アンケートを実施された。今後は、アンケートを基に、介護計画を作成することとしている。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月を基本に見直しを行なっている。状態に変化が生じた時には、状態が落ち着くのを待って、ユニットの計画担当者が、現状に即した計画に変更を行なっているが、利用者、家族、必要な関係者への意見交換はなされていない。	○	定期・不定期を問わず見直し時にも、利用者、家族、必要な関係者間で話し合い、臨機応変に見直していく仕組みを作してほしい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制が確立しており、利用者・家族に安心感がある。また、空きベッドがある時には、ショートステイを受け入れる用意がある。各ユニット間の交流や、1階デイサービスのレクリエーションを通しての交流も柔軟に行なっている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の馴染みのかかりつけ医への受診支援を行なっている。希望により往診も利用できる。かかりつけ医変更の際は、本人、家族と相談し、納得の上で、協力医を紹介している。		
19	47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアに対する体制は整っているとは言えないが、重度化や疾患により、急変が予想される場合は、利用者、家族と話し合いながら方針を共有できるようにしている。特に取り決めはない。	○	重度化した場合や終末期の有り方について、早い段階から話し合い、方針を文書で確認できる仕組みを作ってもらいたい。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については、事務所の鍵の付いたロッカー等に保管し、必要以上に持ち出さないようにしている。また、言葉づかいや記録上の言葉にも注意し、拒否、訴えなどを簡単に書くのではなく、細かな表現を、記録し、日々に活かせるようにしている。		
21	52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に生活の主体は利用者であることを踏まえ、無理なく利用者一人ひとりのペースに合わせ寄り添うケアを心掛け支援している。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的に職員が献立を作成するが、利用者の希望で、変更することも出来るようにしている。自分たちで作った野菜を調理するなど、食事を楽しんでいる。買い物、調理、配膳、後片付けは、職員と一緒にこなされている。「リハビリだから」と、男性利用者が、洗いものを進んで行われていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきを基本としているが、希望があれば、いつでも対応している。また、菖蒲湯やゆず湯等季節に応じて楽しむことが出来、1階のデイサービスが休みの年末年始には、川のせせらぎが聞こえる広いデイサービスのお風呂を利用することにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝自主的に掃除を行っており、食後の後片付け等は、一人ひとり自分の役割として自主的に取り組まれている。書道・塗り絵を楽しみ、食堂や廊下の壁を飾っている。ホームの畑で野菜を作り、食事で楽しむことが出来るよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物は毎回利用者と職員が一緒に出かける。施設周辺の散歩や美容室地域の催しへの参加、また、神鍋高原へお花見に出かけたり、利用者が入居前に住んでいたところに出かけたり、出石そばを食べに行く等、無理のないように気をつけながら、外出の機会を作るようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけ、行動範囲を制限することで、生じる不穏、興奮につながることを職員間で理解しており、日中どこも鍵をかけておらず、ベランダへも出られる。職員は安全確保のため付き添うことにしており、出来る限り拘束しない介護を実践している。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署による防災訓練を実施し、利用者、職員は共に災害時の想定訓練を実施している。また、年1回の地域の防災訓練に参加している。災害対策、近隣の協力も得られるよう、地域交流を図っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	通常、水分は好きな時に取れるよう配慮している。食後のお茶やおやつ時には、状態に応じて、勧めている。食事摂取量は、必要な方については記録はあるが、全利用者についての記録はない。	○	カロリーの過不足や栄養の偏り、水分不足が起こらないよう、職員全員が知識や意識を持ち、利用者一人ひとりが暮らし全体を通して必要な食事や水分が取れるように支援していくことが大切です。記録をとり、把握できる仕組みを作ってもらいたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、居間、台所のフロアーの一面がガラス張りになっており、但馬大仏、雄大な山々や、矢田川のせせらぎが眼下に見える。廊下や、食堂の壁に、習字等利用者の作品が、飾られている。また、エレベーターホール正面には、季節の花が品良く生けられており、和室の前には、誰でもが、手を合わせられるような工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、筆笥以外は、利用者の使い慣れた道具や好みのものが置けるよう配慮されている。テレビ、冷蔵庫、仏壇を持ち込まれている利用者もあり、思い思いの居室となっている。		

 は、重点項目。